

科教協委員会主催 全国研究会のご案内

# 「学習指導要領をどうとらえ、それを乗り越える私たちの実践を」

日時 2019年2月11日(月) 9:30~15:00

会場 全国教育文化会館 エデュカス東京 5階会議室

東京都千代田区二番町12-1(日テレ麹町ビル南館向かい)

(東京メトロ有楽町線麹町駅下車5番・6番出口徒歩2分、

または、JR中央線市ヶ谷または四谷駅下車徒歩10分)

参加費 会員;1000円 非会員;2000円 学生;無料

受付 9:30~

「午前の部」;10時から12時「学習指導要領をどうとらえるか」

- ① 八田敦志さん(埼玉、小学校)「自由な教育実践・研究ができる未来を」
- ② 岩間 滋さん(岩手、中学校)「教科書の記述の「圧力」の間違いは、学習指導要領が原因だった！」
- ③ 高橋匡之さん(岩手、高校)「授業こそ教員の自主性を発揮できる場」
- ④ 総括討論

「午後の部」;12時45分から15時「私たちは実践を、何を大事にどう作っていくのか」

- ① 佐々木仁さん(神奈川、小学校)「子どもが自ら『変わる』ために必要なことは？」
- ② 佐伯岳彦さん(滋賀、小学校)「とじこめた空気と水(小4)」
- ③ 板山圭輔さん(山梨、小学校)「地域を教材化した私の思い」
- ④ 総括討論、全体のまとめ

<提案、報告の紹介>

八田敦志さん 「自由な教育実践・研究ができる未来を~理科教師として、また『理科教室』編集に携わって~」

理科専科となって10年ほど、科教協のこれまでの実践を元に授業を設計してきた。子ども達の世界を見る目が変わるからだ。ところが、「教科書通りやらないといけない」「教科書に載っていないことは教えるはいけない」という主張をする管理職に出会った。多くの圧力に耐え、不十分ながらもなんとか私がやりたい授業を実践できている。担任という立場だともっと苦労が多いと聞く。教科書に縛られながらもよりよい授業をしてほしいと考

え、理科教室では「教科書を超えるプラスワン」のコーナーを作った。どうしたら私たちの実践を広める事ができるのか、多くの方からの意見で問題解決の糸口を探りたい。

岩間 滋さん 「教科書の記述の「圧力」の間違いは、学習指導要領が原因だった！~実験の開発&「理科教室」の論文から気づいた「圧力」の問題点~」

中学校1年生の「圧力」の授業で、教科書通り進めても生徒は、桁数の多い計算を強いられ、用語を暗記するだけの勉強になって、面白くないと、色々な実験を開発してきた。今から10数年前、定年退職寸前に『理科教

室』で読んだ論文で、「圧力は状態量」ということを初めて知った。そこで教科書の記述がなぜ間違いなのかが分かった。今まで開発してきたいろいろな実験が正しかったのだ。そこで他の会社の教科書もみた。みな同じだった。そしてこの原因が学習指導要領だったことを発見した。新学習指導要領も間違えたままなので、私は「圧力」について、教科書のみならず学習指導要領の記述を改訂させたい。他の単元ではどうだろうか。

**高橋匡之さん 「授業こそ教員の自主性を発揮できる場～『はじめて規定』原則廃止の背景～」**

06 教育基本法第 16 条に「教育は、不当な支配に服することなく、この法律及び他の法律に定めるところにより行われるべきものであり、…」と改訂されて、教育現場には、勤務状況確認シートの提出とそれに伴う人事考課制度が導入されるなど、教職員に対する管理は強まる一方です。学習内容に関しても、学習評価の仕方まで指導を受けます。このような状況の中、唯一教員の自主性を発揮できる場は授業です。「はじめて規定」（詳細な事項は扱わないなどの規定）を原則削除(2008)しました。この背景を検討しながら、これから進むべき道をみなさんと考えていきたいと思えます。

**佐々木仁さん 「子どもが自ら『変わる』ために必要なことは？」**

「研究授業をしなくちゃ」そんな時、まず見るのは学習指導要領、その後に子ども。こうした研究方法は学習指導要領に書いてあることに向けて子どもを「変える」という現在の学校の姿である。子どもを「変える」のではなく、子ども自らが「変わる」実践を目指すべきではないか。子ども自らが「変わる」ために必要なこと、それは学習指導要領に向けてではなく、確かな自然科学の獲得である。

**佐伯岳彦さん 「とじこめた空気と水(小4)**

**～「見えない」空気が「見える」ようになるために～**

県の指導主事が来る際に、授業をすることになり、大学の恩師や研究会の方の協力を得ながら行った実践。「見えない」ものを「視る」ことは、教科書の内容だけでは難しい。そこで、スライムなどを使って認識を高めていった。

**板山圭輔さん 「地域を教材化した私の思い～流れる水のはたらきにドローンの活用を～」**

私は「流れる水のはたらき」という単元の指導を通じて、「私たちが住む地域の地形は流水の作用によって形づくられた」ということを伝えたい。しかし、子どもたちにとってモデル実験と実際の地形を結びつけることは発達段階的に難しい。この課題を解決する1つの手段としてドローンの活用を提案する。また、山梨県北杜市は過去から現在に至るまで水害による甚大な被害を経験してきた。地域の地形、歴史的事実の教材化を通じ、地域について知る機会となること、そして何より理科の楽しさと有用性を子どもたちに感じさせたい。

